

1. 市民参加型イベント「みんなで再生！広島湾～広島湾再生の活動体験&ミーティング」の実施報告

第1回イベント(平成25年10月20日実施)のねらいと効果について

イベント全体概要

【1回目】平成25年10月20日(日) 13:00～17:00

- ①宮島水族館の取り組み紹介
- ②生き物観察講習 宮島水族館前 大元干潟
- ③生き物観察結果のとりまとめ

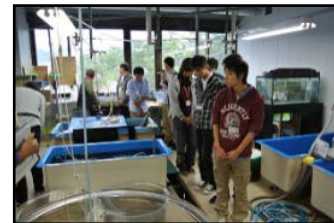
【目的：市民に対する活動手法の理解の向上】

・子供と一緒にできる生き物観察する方法について学ぶ。

開催結果

宮島水族館の取り組み紹介

- ・展示水槽やバックヤードの見学



貴重な生き物の繁殖実験の様子



カキ養殖再現水槽

参加者：19名

生き物観察講習(大元干潟)

- ・職員とボランティアの指導による、干潟での生き物観察体験



ボランティアによる観察方法の指導



カニの巣穴の調査

生き物観察結果のとりまとめ・発表

- ・見つけた生き物の種類や特徴のまとめ
- ・今後生き物観察に市民が参加しやすくなるための課題整理



参加者によるとりまとめの様子



とりまとめ結果の発表

参加者の感想

- ・ここだけではなく、他の海の生き物と比較してみたい。
- ・もっと色々な海を見てみたい。
- ・広島湾は生産性が高い海であることがわかった。
- ・実際に目で見て、手で触って観察することが楽しい。 など

第1回イベントのねらいと実施効果について

市民に対する広島湾再生の広報活動の実施(～H24)

【課題】

- ①一過性のイベントが多く、市民による自主的・継続的な活動の増加に結びつきにくい。
- ②広島湾再生の取り組み状況がまだ十分理解されていない。

市民が自主的・継続的に参加できる環境づくりが必要

【イベントのねらい】

【第1回イベント】

- ①実際の活動を体験することで、広島湾の環境や保全・再生のための活動の実施状況について理解と関心を深める。
- ②活動(生き物観察)に市民が参加しやすくなるための課題について考える。

【第2回イベント】

- ①見学会を通して、広島湾再生のための森・川・海の取り組みの必要性について理解と関心を深める。
- ②森・川・海の繋がりの大切さを広めていく、広まるための具体的な方法について考える。

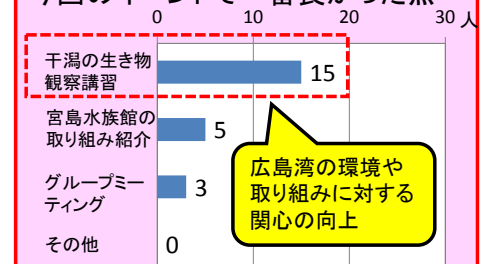
【イベントの実施効果】

- ①広島湾の保全・再生に対する参加者の理解度が向上。
- ②生き物観察方法について、参加者全員の理解度が向上。
- ③今後市民が生き物観察に参加しやすくなるための課題を整理。

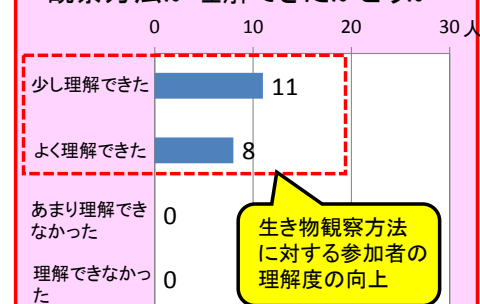
第1回イベント(10/20)の実施効果

①参加者へのアンケート結果

今回のイベントで一番良かった点



今回のイベントで、干潟の生き物観察方法が理解できたかどうか



②市民が生き物観察に参加しやすくなるための課題(グループミーティング)

- ・干潟をもっと身近に観察できる場所や機会の充実
- ・ガイドの充実や観察器具・マニュアル等の貸出、市民が理解できるマニュアルづくり
- ・インターネットによる広報の充実 など

③その他、自由意見(アンケート結果)

- ・立場や職業が違う人が参加する活動を進めて欲しい。
- ・もしボランティアなどの活動が行われていれば積極的に参加したい。
- ・環境保全は、県民全体の意識を高めることが大事であり、CMを流すくらい広報すべき。
- ・もう少し潮の引きが良い時期に設定してもらいたかった。 など

第2回イベント(平成25年11月16日実施)のねらいと効果について

イベント全体概要

【2回目】平成25年11月16日(土) 10:00～17:00

①森・川・海の取り組みを知る見学会

広島市森林公園～太田川における底質改善箇所～広島市西部水資源再生センター

②グループミーティング (広島港宇品旅客ターミナル)

【目的：森・川・海の大切さを広めていくための方法】

・森・川・海の大切さを一般の方に広めていく、広まるために大事なことについて話し合う。

開催結果

見学会

【広島市森林公園】

- ・自然体験活動の解説
- ・周辺の森林を散策し、森林整備の状況等について解説



自然体験活動の解説



森林の手入れの状況等の紹介

【太田川 底質改善箇所】

- ・石炭灰造粒物を用いた底質改善方法と効果の解説



太田川底質改善箇所の見学と解説



【広島市西部水資源再生センター】

- ・下水処理施設の見学
- ・下水処理のしくみの解説



下水処理施設の見学と下水処理のしくみの解説



グループミーティング・発表

- ①見学会の感想や意見
- ②森・川・海の繋がりの大切さを広めていくためにどうすればよいかについての話し合い



参加者によるとりまとめの様子



とりまとめ結果の発表

参加者の感想

- ・グループ発表がとてもおもしろく、理解しようと努力することができた。
- ・教育関係者だが、学校でできないイベントを行っていただき感謝している。
- ・1日で森・川・海を回れたので、中身の濃い勉強ができた。
- ・森・川・海の繋がりの見学会ということだが、それぞれの場所での取り組みの説明しかなかった。
- ・山から出た栄養塩がダムに溜まっているのでは。次回はダムも見学に入れてほしい)

第2回イベントのねらいと実施効果について

市民に対する広島湾再生の広報活動の実施(～H24)

【課題】

- ①一過性のイベントが多く、市民による自主的・継続的な活動の増加に結びつきにくい。
- ②広島湾再生の取り組み状況がまだ十分理解されていない。

市民が自主的・継続的に参加できる環境づくりが必要

【イベントのねらい】

【第1回イベント】

- ①実際の活動を体験することで、広島湾の環境や保全・再生のための活動の実施状況について理解と関心を深める。
- ②活動(生き物観察)に市民が参加しやすくするための課題について考える。

【第2回イベント】

- ①見学会を通して、広島湾再生のための森・川・海の取り組みの必要性について理解と関心を深める。
- ②森・川・海の繋がりの大切さを広めていく、広まるための具体的な方法について考える。

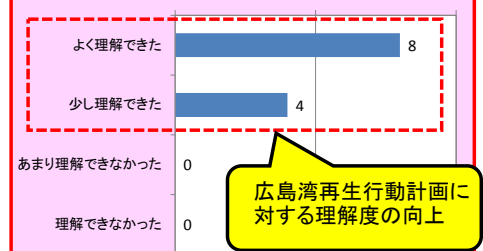
【イベントの実施効果】

- ①森・川・海の繋がりの重要性や広島湾再生行動計画に対する参加者の理解度の向上。
- ②参加者による、森・川・海の大切さを広めていくための方法を提案。

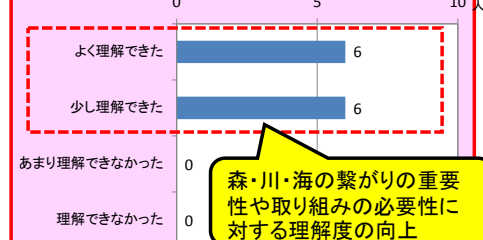
第2回イベント(11/16)の実施効果

①参加者へのアンケート結果

広島湾再生行動計画に対する理解が深まったか？



森・川・海の繋がりの重要性や取り組みの必要性に対する理解が深まったか？



②森・川・海の繋がりの大切さを広めていくための方法

(しくみ)

- ・企業やカキ業者、森林関係者などを巻き込むことが、意識の高い環境づくりに繋がる。
- ・「森・川・海の繋がりが」だけではなく、イベントに「参加した人たちを繋げる」ことが重要。
- ・口コミで別のメンバーを誘う仕組みづくりが必要。
- ・親の心配を無くし、子どもが安心してイベントに参加できるよう、安全管理面での協力体制づくりが必要。

(教育)

- ・森・川・海の繋がりを広めるには特に中学・高校生に対する学校教育や、大人も含めて楽しみながら教育することが必要。

(具体的活動)

- ・「カニ」などの生物をターゲットにして、森・川・海の繋がりを学んではどうか？
- ・ナルトビエイなどの食害生物を食べる「食の祭典」イベントを実施する。

2. 「魅力ある広島湾を次世代へ～森・川・海のつながりを知るパネル展～」の実施報告

「魅力ある広島湾を次世代へ～森・川・海のつながりを知るパネル展～」のねらいと効果について

実施概要

【開催日時】 平成26年1月11日(土) 9:00 ～ 17:00
1月12日(日) 9:00 ～ 17:00

【開催場所】 イオンモール広島府中 1階「ムーンギャラリー」
(広島県安芸郡府中町大須2丁目1-1)

【目的:市民に対する広報の充実、NPO等との連携】

- ・広島湾の現状、施策の実施状況、NPOや企業等の取り組みのPR
- ・NPO等による活動発表の場づくり
- ・行政からNPO等への情報提供

開催概要

【広島湾再生行動計画の紹介】

- ・広島湾再生行動計画の概要と森・川・海のつながり
- ・伊能図と海図で見る広島湾

【森・川・海の取り組み紹介】

- ・NPO、企業、研究機関、行政による取り組み紹介
- ・ごみトランクミュージアム、デザインマンホールの展示

【みんなで再生！広島湾】

- ・市民参加イベントの紹介

【特別展示 ミヤジマトンボのキセキ】

- ・ミヤジマトンボの生態や生息環境の紹介 (パネル)
- ・幼虫・成虫のレプリカ展示、クラフト体験コーナー

来場者計:660名



会場全体の様子



「広島湾再生行動計画の紹介」、「みんなで再生！広島湾」コーナー



「森・川・海の取り組み紹介」コーナー



「特別展示 ミヤジマトンボのキセキ」コーナー



アンケートの記入状況

パネル展のねらいと実施効果について

【課題を受けての方針】

①市民に対する広報の課題

- ・市民に対する広島湾再生のための自主的・継続的活動へ繋げ、参加者の増加を図る。

②NPO等との連携に関する課題

- ・NPO等による広島湾の保全・再生のための自主的な取り組みへの支援

【パネル展のねらい】

①市民に対する広報の課題

- ・広島湾の現状や施策の実施状況、NPO、企業等の取り組み状況に関する広報の充実

②NPO等との連携に関する課題

- ・NPOが実施している活動の発表の場づくり
- ・意見交換会での課題、要望に対する行政からの情報提供 (例:ゴミ回収に関する行政の取り組み紹介)

【パネル展の実施効果】

①森・川・海のつながりの大切さや行動計画の取り組みに対する市民の関心の向上

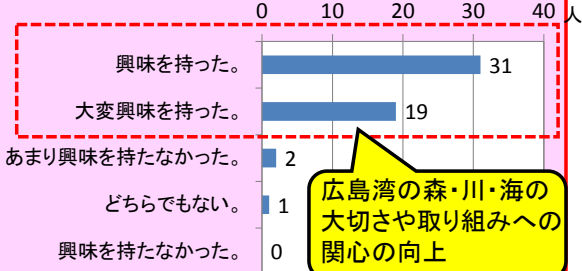
②意見交換会に参加しているNPO等との連携の実現

- ・パネル展へのNPO等の出展協力の実現
- ・活動発表の場の提供
- ・NPOに対し、行政や企業の取り組み情報を提供

パネル展の実施効果

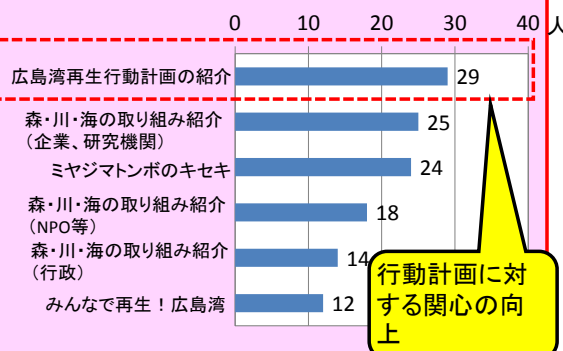
来場者アンケート結果

広島湾の森・川・海の大切さや取り組みについて興味を持ったか？



広島湾の森・川・海の大切さや取り組みへの関心の向上

今回のパネル展で印象に残った展示



行動計画に対する関心の向上

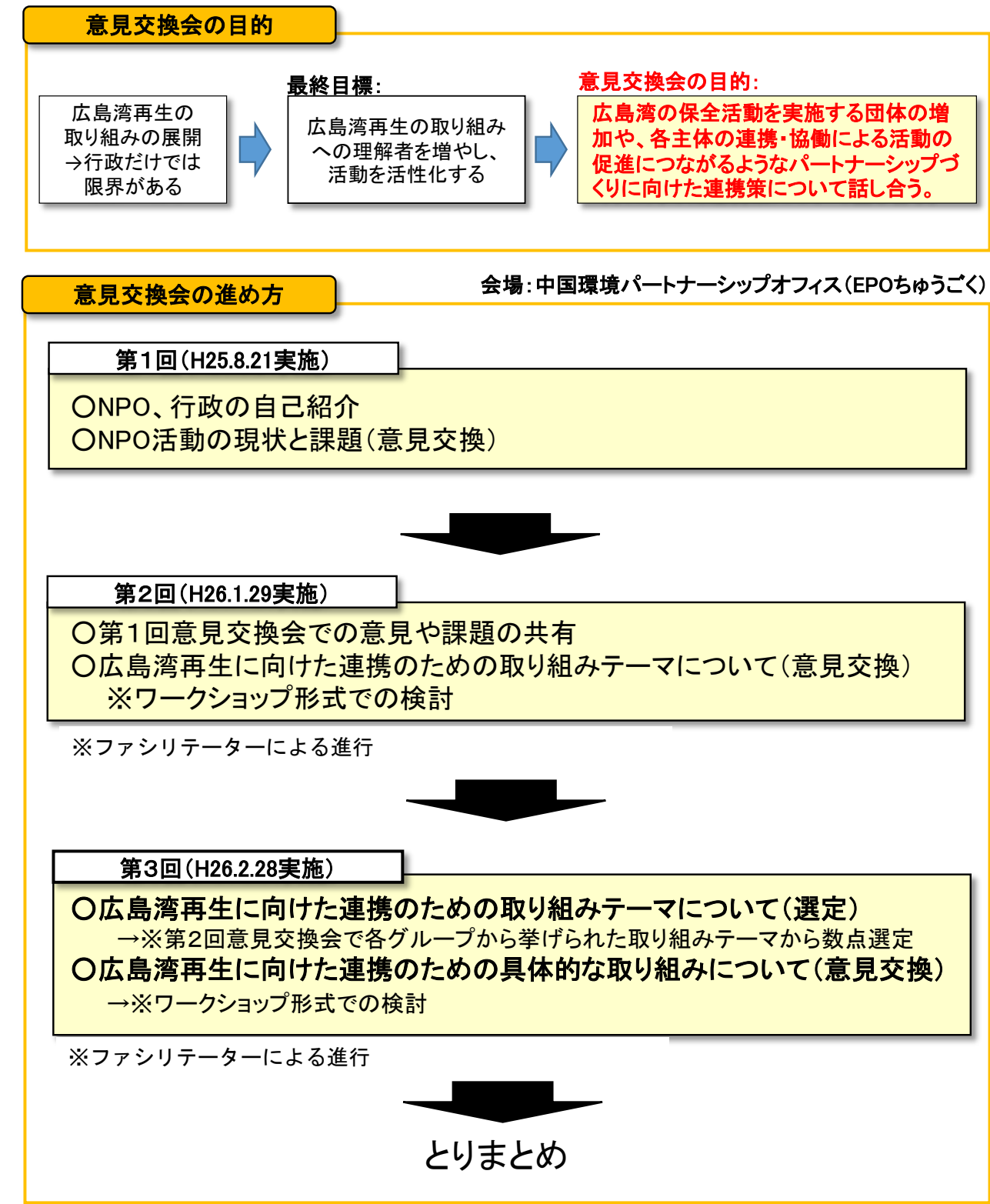
パネル展に対する意見や感想

- (多様な主体の連携について)
 - ・個人から行政、企業まで、様々な取り組みをしているのは素敵なお事だと思う。
 - ・様々な主体が一堂に活動を紹介する展示会は少ない。→今回、垣根を越えて連携の様子が伺えた。
- (行動計画について)
 - ・内容、分野が思いのほか広いことがわかった。
 - ・小学生用の副読本(広島湾再生推進会議作成)を、学校教育の中で、ぜひ取り上げていただきたい。
- (パネル展の課題について)
 - ・広島湾南部はすごくきれいなのに、紹介されていない。
 - ・次世代へ繋げる上でのポイントが不明確。
 - ・ミヤジマトンボの生態などもう少し詳しいものが欲しい。
 - ・データが多いが内容がよくわからない。

3. 広島湾再生のための連携に向けた意見交換会について

3. 1 実施概要

広島湾の保全活動を実施する団体や、各主体の連携・協働による活動の促進につながるようなパートナーシップづくりに向けた連携策について話し合うため、NPO 等と行政関係者による意見交換会を3回開催した。



実施概要

意見交換会に参加した NPO 等の団体名	
団体名	
エコロジー研究会ひろしま	
NPO 法人 自然環境ネットワークSAREN	
NPO 法人 瀬戸内里海振興会	
NPO 法人 ひろしまNPOセンター	
(一財)広島県環境保健協会 地域活動支援センター	
広島県釣りインストラクター連絡機構	
(公財)日本釣振興会広島県支部	
広島連塾Sus☆テラス	
NPO 法人 もりメイト倶楽部Hiroshima	
京橋川かいわいあしがるクラブ	
NPO 法人 ゆあーず「食」未来研究所	
EPOちゅうごく「環境省中国環境パートナーシップオフィス」	

※ファシリテーター： ひろしまジン大学 学長／代表理事



意見交換会 開催状況

3. 2 結果とりまとめ

(1) 意見交換会（第1回）での意見とりまとめ

課題	ご意見	検討の 必要性	現時点での取り組み及び支援の事例
情報共有・ 情報発信 (PR)	・NPOを取り込むための条件づくりが行政の方で出来ていないのではないか。(例えば、海の生物について何か活動しようとしても、アサリは水産系の部署、ハクセンシオマネキは環境系の部署というように縦割りである。)	活動に必要な NPO、行政間の 情報共有と方法	(情報共有の場) ○(行政間)広島湾再生推進会議の設置(国、県、市が参加) ○(NPO間)EPOちゅうごく、ひろしまNPOセンター
	・「パートナーシップ」づくりにあたり、 <u>省庁、庁内を超えた行政の横繋ぎの協力体制をつくって欲しい。</u> (会議に出られなくても、何かあったときには横に繋ぐことを意識する)		(活動の場) ○環境学習フィールドの提供(広島県自然環境課:県民の森、もみのき森林公園、県民の浜など) ○体験の機会の場の認定制度(環境省、各都道府県) →企業、NPO等が提供する自然体験活動等の体験の機会の場を認定し、場の周知を実施
	・干潟等で環境学習活動をしようとしても、 <u>どの行政機関が干潟を管理しているのかわからない。</u>		(器材の貸出等) ○環境学習教材の貸出(広島県環境政策課、EPOちゅうごく) ○環境学習相談、指導者の紹介、学習用資器材の貸出(広島県環境保健協会)
	・住民が何か活動をしようとしても、 <u>どこに相談すればやりたいことができるのかわからない。</u> (行政機関の窓口に行ってみるまでわからない)		(支援制度等の情報) ○ホームページによる補助金・助成金に関する情報提供 ・EPOちゅうごく、ひろしまNPOセンター ・ひろしま市民活動支援総合情報システム(広島市;ひろしま情報 a-ネット)
パートナー シップ	・住民が活動をする場合、実際は <u>3つくらいの行政機関と調整しないといけないが、住民は全て一つのところで解決できると思いがち</u> である。	活動に関する情 報発信(PR)方 法	(活動のニーズとシーズのマッチング) ○地域における企業等の社会貢献活動マッチング(東広島市) ○サービスグラントinひろしま(ひろしまNPOセンター、NPO法人サービスグラント) → NPOに対して資金ではなく、スキルやノウハウを提供することでの支援をコーディネート
	・ <u>公的資金で支えなければならない部分は、行政が公平に配分し支えていく必要がある。</u>		○広島湾再生パネル展の開催(H24、H25) ○ホームページによるイベント、NPO活動の情報提供 ・EPOちゅうごく、ひろしまNPOセンター ・ひろしま市民活動支援総合情報システム(広島市;ひろしま情報 a-ネット)
	・行政から「 <u>入れ物[※]があるから使ってください</u> 」という提案があっても、使うニーズが無いから使わないことが多い。 ※)…例 えば、環境学習ができる干潟などのフィールド		○せとうち海援隊支援事業(広島県環境保全課) →県内の海浜で清掃美化活動や生き物調査などの環境保全活動をボランティアで行う団体を認定。県は、活動に対する保険への加入、活動状況のPRなどにより支援。また、活動する地域の市町が県と連携し、ごみの処分などをバックアップする。 ○広島県アダプト制度(広島県道路河川管理課) →地域、学校、企業等が、ボランティアで道路・河川の美化・清掃活動に取組むしくみで、行政とパートナーシップを結んだ団体に、表示板(アダプトサイン)の設置や保険加入などの支援を行う。 ○水産多面的機能発揮対策支援事業(水産庁) →漁業者、地域住民、学校、NPO等により組織される活動組織が行う水産多面的機能(水産物の提供のほか、薬場保全、漂着物処理、漁村文化の継承という教育・啓発の場の提供などの様々な機能)の効率的・効果的な発揮に資する地域の取り組みを支援する制度。 →活動費用の支援のほか、全国各地の取り組みの活動状況報告会の開催、水産多面的機能発揮対策事業に取り組む者を対象とした講習会の開催、取り組みの技術サポート(相談員による訪問指導や調査結果の分析など)を実施。
	・活動資金はほとんど <u>会員の会費のみであり、何か主催して実施することがなかなか出来ない。</u> (別の行事に呼んでいただき手伝いをすることが多い)		○(他海域)大阪湾見守りネット →大阪湾に関心のある個人や団体からなるゆるやかなネットワークが形成され、大阪湾再生に向けた情報交換や共有の場、相互理解の場として大阪湾再生フォーラム開催などの活動を実施
ごみ清掃 活動	・行政とNPOの間に、お互い <u>非営利だから儲けてはいけないという誤解がある。</u> (その結果、一般の事業者より低い単価、安い労働力で使われる傾向にあり、数年経つと活動がしぼんでしまう)	NPOと行政間の パートナーシップ 構築のための ルール	○(他海域)大阪湾見守りネット →大阪湾に関心のある個人や団体からなるゆるやかなネットワークが形成され、大阪湾再生に向けた情報交換や共有の場、相互理解の場として大阪湾再生フォーラム開催などの活動を実施
	・「パートナーシップ」づくりにあたっては、「 <u>下請け化</u> 」にならないよう注意が必要である。そのため、今後の意見交換会では、 <u>パートナーシップの在り方について行政とNPOできちんとすり合わせる必要がある。</u>		○(他海域) 海ごみ普及啓発事業(岡山県) →NPO団体等に委託し、底曳き網の漁業体験や海岸での生き物観察会、広報活動等を実施し、県民のごみに対する意識改革や環境問題への関心の向上を図る。 ○(他海域)香川県海ごみ対策推進協議会(香川県) →国、県、市町、漁業関係者等が連携し、海底堆積ごみ回収・処理システムの構築やモニタリング、発生抑制対策に係る連絡調整などの具体的取り組みを連携・協働して実施
	・パートナーシップといっても現状は行政とNPOは対等ではない。活動に参加したり活動をよく知ることなど、行政に歩み寄っていた <u>だき、その上でこのような会議を行うことがまず必要</u> である。		○市町が実施する海岸漂着ごみの撤去・処理に係る補助事業の実施(広島県循環型社会課)
	・NPO等はそれぞれのテリトリーの中で活動をしていることと、活動団体の絶対数が少ないことで、 <u>川と海のコラボによる環境学習などが出来ない</u> 。		○地域における企業等の社会貢献活動マッチング(東広島市) ※再掲
海との触れ合 いの場づくり	・手法等が違うと、同じ分野の団体であっても横の連携が難しい。 (NPOはミッションを達成するのが主目的であり、お金のことはこの次に考える)	NPO、地域、行 政間の交流の場	○水産多面的機能発揮対策支援事業(水産庁) ※再掲
	・活動を実施する際は、 <u>その地域の方々と一緒に話し合うことが大切</u> である。		○市町が実施する海岸漂着ごみの撤去・処理に係る補助事業の実施(広島県循環型社会課)
	・広島湾再生に向けて連携による活動を展開していくには、 <u>NPOだけでなくボランティア団体や漁協など幅広い方が入った方がよい。</u>		○地域における企業等の社会貢献活動マッチング(東広島市) ※再掲
	・協働で事業を実施するためには、 <u>アウトカムの設定と、評価手法の検討が必要である。</u>		○水産多面的機能発揮対策支援事業(水産庁) ※再掲
ごみ清掃 活動	・海ごみの分類調査については、 <u>干潮時に実施する必要がある</u> 、 <u>短期間で実施するにはそれなりの体制づくりが必要</u> 。	ごみ清掃活動に おける連携方法	○「広島県西部漁業振興対策協議会」(広島県西部関係漁協)による県外へ流出したカキ養殖資材(プラスチックパイプ)の回収・リサイクル
	・ <u>ごみ清掃活動において、なかなか漁業者の協力が得られないのが課題</u> である。 (一番海に関係してもらう人に参加してもらわないと、我々の資金・人間だけで活動するのは難しい)		○海の日における県内漁協による海ごみの一斉清掃活動(各漁協による清掃と、県漁連によるごみ回収結果の把握)
	・ごみの問題については、 <u>漁業者を責めるのではなく、行政が動いて、漁業者とタイアップしながら活動することが必要</u> 。(このような意見交換の場に漁業者が出てきやすい仕掛けが必要)		○(他海域) 海ごみ普及啓発事業(岡山県) →NPO団体等に委託し、底曳き網の漁業体験や海岸での生き物観察会、広報活動等を実施し、県民のごみに対する意識改革や環境問題への関心の向上を図る。 ○(他海域)香川県海ごみ対策推進協議会(香川県) →国、県、市町、漁業関係者等が連携し、海底堆積ごみ回収・処理システムの構築やモニタリング、発生抑制対策に係る連絡調整などの具体的取り組みを連携・協働して実施
	・宮島でごみ清掃を実施する団体は多いが、一部の団体は海岸のごみを山の方に入れている。 <u>山の中ではなく、外(海岸)に出して片付けることが必要</u> である。		○市町が実施する海岸漂着ごみの撤去・処理に係る補助事業の実施(広島県循環型社会課)
海との触れ合 いの場づくり	・海岸清掃を実施しても、 <u>その市町の広域行政チャネルと調整しないと、ごみを引き取ってもらえず水平展開もしにくいので、全体のコーディネートが必要である。</u>	海との触れ合 いの場づくり	○地域における企業等の社会貢献活動マッチング(東広島市) ※再掲
	・県内でどれくらいのコストが展開しているか把握しようとしても、 <u>地域住民は自己完結型で事業が終わっても報告がもらえないことが多く、総量が把握できない。</u>		○水産多面的機能発揮対策支援事業(水産庁) ※再掲
	・広島湾には釣り公園が少ない。釣り公園はどこにでもできるわけではなく、 <u>自己再生できるような環境の釣り公園づくりが必要</u> 。(港湾施設整備の際に、ある程度捨石を設置するなど、ちょっとしたことで釣り公園になる)		○市町が実施する海岸漂着ごみの撤去・処理に係る補助事業の実施(広島県循環型社会課)
			○地域における企業等の社会貢献活動マッチング(東広島市) ※再掲

(2) 意見交換会（第2回）の結果

広島湾再生に向けた連携のために、ともに取り組むことができる課題とは？

A班

○コーディネート
・NPOの持つノウハウ（情報）等の整理
・場の活用も含む

○市民をどう効率的に巻き込むか
（行政・NPOと一緒に）

（補足：当日の発表内容より）

①人を繋ぐだけでは無く情報の共有も含めた、**色々な意味でのコーディネートが必要**：
①団体間のコーディネート
②色々なNPOが持っているノウハウを整理して提供するようなコーディネート

②ただし、漠然とやっても長続きしないので、**何か共通のイベントや「場」の活用を目的とし、NPOと行政の連携やコーディネートの方法の検討が必要**

③イベントだけでは無く、**活用されていない場（干潟など）の活用を目的として、色々なNPOが知恵を持ち寄り、コーディネートして何かできないか。**

③それに市民をどう巻き込んでいくかについては、NPO単独で活動していても、なかなか地域・市民に浸透しないので、**NPOや行政が連携して効率的にPRしていくかが課題。**

B班

○参画・連携
↓
漁協等

○海ごみの回収、発生抑制→普及啓発も

○効果的なイベントの打ち方

（補足：当日の発表内容より）

①参画・連携
→現時点では行政、NPOに限られたメンバーしかいないので、**それ以外の人々の参画、現時点で連携できていない方々をどう巻き込んでいくかが課題**（具体的には、漁協との連携など）

②海ごみの回収と発生抑制
→具体策として公物管理という視点であったり、**回収だけではなく発生抑制というような、環境学習の視点も必要。**

③効果的な手法、イベント
→ ①、②をしていくために、**どのような効果的な手法やイベントを打っていったらいいかが課題。**
→ 個別の課題に取り組むだけではなく、それらを**どのように繋げて効果的にやっていくかが課題。**

C班

○連携のための仕組み、場が必要

○情報共有の在り方（連携も踏まえ...）

○NPOの活動を持続可能にする（資金）

（補足：当日の発表内容より）

①とにかく**連携するための仕組み、場をつくっていくのが課題**。（特に、**漁業者とも連携を取れるような仕組み**を考えていく必要がある）

②連携をとるためには情報をきちんと共有しなければいけないので、**情報共有の在り方が課題**。（それぞれのNPOの活動や行政の支援にしても、情報がきちんと行き届いていないので色々な齟齬が発生していることもある）

③色々連携ができたとしても、活動基盤の脆弱なNPOがこけてしまつては元も子もないので、**NPOの活動を持続可能にするための仕組み・機能（資金など）が課題。**

A班～C班のワークショップで話し合われた結果のまとめ
（広島湾再生に向けた連携のために、ともに取り組むことができる課題を抽出）

(3) 意見交換会（第3回）の結果

①広島湾再生に向けた連携のための取り組みテーマの選定

NPO 行政

自助

<NPOから見た課題>
(第2回意見交換会で話し合い)

○コーディネート
・NPOの持つノウハウ（情報）等の整理
・場の活用も含む

○市民をどう効率的に巻き込むか
（行政・NPOと一緒に）

○参画・連携
↓
漁協等

○海ごみの回収、発生抑制
→普及啓発も

○効果的なイベントの打ち方

○連携のための仕組み、場が必要

○情報共有の在り方（連携も踏まえ...）

○NPOの活動を持続可能にする（資金）

NPO 行政

公助

<行政から見た課題>
(第3回意見交換会で発表)

○イベントに子どもの参加がなかった。

○情報共有
→閲覧者が少ない。
→活動（イベント）を通じた広報、普及が必要。

○連携のためのしくみがない。

NPO 行政

互助

<連携のための取り組みテーマ>
(第3回意見交換会で話し合い)

A班
効果的なイベントの打ち方

B班
連携のためのしくみ①
(情報共有、情報提供)

C班
連携のためのしくみ②
(具体的な活動のための連携)

自助、公助の課題を踏まえ、連携のための取り組みテーマを3つ選定

意見交換会（第3回）で話し合う取り組みテーマの選定結果

6

②ワークショップのまとめ（連携による取り組み内容）と、ワークショップ結果を踏まえた今後の検討の方向性（案）

第3回意見交換会でのワークショップの結果			今後の検討の方向性（案）
テーマ	連携による取り組み内容（案）		
効果的なイベントの打ち方	○親子シンポジウムの開催	・現状では、安全に釣りやイベントを実施できる場所が少ないので親が子どもをイベントへ参加させないことが課題。 ・子どもだけだと親が心配するので、<u>親子が共に楽しみながら出来るイベントと組み合わせて、一緒に考えることができるような形</u>ができないか。	○多様な主体の参画による市民参加イベントの実施 ＜テーマ（例）＞ ・太田川と広島湾を行き来する魚介類（アユ、サツキマス）や、河川と密接な関係がある広島湾の魚介類（カキ、シジミ、アサリ等）をテーマとした、森・川・海の繋がりを体験するイベントを実施。 ・川と海の繋がりを理解できるアユなどを素材として、森・川・海の繋がりの大切さをわかりやすく市民に伝える。 ＜イベント内容（例）＞ ・水産関係者との連携による稚魚の放流やアユ等の試食会 ・水産関係者との連携による魚釣り（漁獲）体験 ・アユやサツキマスの産卵場～生息場を巡る見学会 ・学識者によるアユやサツキマスをテーマとした学習会 ・干潟におけるアサリのモニタリング ※イベントについては、企画段階から NPO に参画いただき、具体的な内容、実施方法を一緒に考える。
	○森・川・海の繋がりをテーマとした、食育や魚体験などのイベント（海の日に開催）	・そもそも、森・川・海を繋ぐストーリーがないのが課題。 ・広島湾にはカキやメバル、チヌなどの優れた資源があるので、<u>森・川・海の繋がりの中で、それらをテーマとしたイベントを海の日にやって、皆で広島湾の思いを語り合うことができないか。</u> ・食育や魚体験のイベントをするときに、<u>魚に詳しい人、魚のことを面白く話せる人を呼んではどうか。</u> ・博物館の人などに協力していただいて、<u>生きた広島湾の魚（ナマズ等）を見せる、触ってもらうイベント</u>ができないか。 （役割の案） ※行政や漁協・・・ 魚を見せる、触ってもらう、魚に詳しい人を呼ぶ。 NPO・・・ それぞれの得意分野の NPO が指導したり、手伝いをする。	
連携のためのしくみ① （情報共有、情報提供）	○NPO の活動情報を共有するためのプラットフォームづくり	・まずは <u>基礎的な情報を集めていく</u> ことが必要。 ・広島湾というテーマは範囲が広すぎるので、森の活動、川の活動（太田川なら 6 本の川を 1 つずつ分ける）、海（浜、沖合い）の活動といった <u>カテゴリごとにポイントを絞る。</u> ・情報の更新については、<u>具体的な事業を継続していくことが必要。</u> （テーマを変えながら、または場所を変えながら、誰かが必ず関わるような事業を体系的に進める） ・<u>プラットフォームをつくる上で、核となるものが必要なので、何か一つ分かりやすい目標</u>があった方がよい。 ・プラットフォームは、<u>フェイスブックを活用して情報共有するしくみがよい</u> のではないかと（みんながシェアすることで情報が広がっていく）	○NPO 等の活動状況の共有・提供のためのプラットフォーム（仮）づくりに向けた検討 ＜目的＞ ・プラットフォーム（仮）に向けた情報共有・意見交換を行うとともに、仕組みの検討を行う。 ＜検討内容＞ ・現在の活動状況の把握 ・先進事例（東京湾、大阪湾）のレビュー及び課題抽出を踏まえた、広島湾ならではの情報等の検討 ・NPO の活動に関する、基礎的情報の収集・整理（カテゴリ毎に区分） ・活動情報等の共有・提供のためのプラットフォームの仕組みの検討

第3回意見交換会でのワークショップの結果			今後の検討の方向性（案）
テーマ	連携による取り組み内容（案）		
連携のためのしくみ② （具体的な活動のための連携）	○啓発を目的としたシンポジウムの共同開催 （市民、漁業者も含めたステークホルダーと一緒に対話の場として）	・漁業者だけに限らず、市民も含めたステークホルダー間の認識のズレを解決していくことが第一歩であり、特にこのような意見交換会の場に、漁業者の方も来て欲しいということで、<u>漁業者と一緒に対話の場として、一度シンポジウムの共同開催という形がよい</u>と思う。 ・研究者、有識者も入れて、科学的根拠に基づき今の広島湾をもう一度見つめ直して、対話と理解を育みながら、それをもって <u>広島湾の課題の論点を共有しながら、その結果、環境改善のアクションに繋がるような流れが必要</u>ではないか。	
	○漁業者が「自助」としてできることに対するサポートの実施	・「互助」については、<u>漁業者と一緒に何ができるか</u>というところに向かうこともできるし、別の手法として、例えば <u>漁業者が「自助」として何かできることに対してこちらがサポートしたり、そういった自助の動きを促すような働きかけもできるのではないか</u>。	